

2017 年のスギ・ヒノキ花粉数の予測

【記：山口県医師会常任理事

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦】

2016 年のシーズンまで 3 年連続で平年を下回り、また同じく 3 年連続して前年を下回るスギ花粉総数となっていました（図 1）が、2016 年の夏は記録的な猛暑となり、この時点で休養十分なスギが雄花をたくさん着けることが予測されていました。

例年のように 11 月上旬にスギの木を観察してみますと、雄花を着けている枝の割合（筆者はこれを便宜上「着花率」と称しております）は、ほぼすべての木で前年以上となっていました（図 2、図 3、図 4、図 5）。図 6 は年別のスギ雄花の着花率とスギ花粉数のグラフです。棒グラフは左軸で、県内全測定機関のスギ総数の平均値、折れ線グラフは右軸で、20 数か所のスギの木の着花率です。今シーズンは、着花率の高さを反映して 2013 年以來の大量飛散となりそうです。2000 年以降の平均着花率と花粉総数の回帰式により、県内測定施設の平均値として、約 3,700 個/cm² というスギ花粉総数の予測値が導き出されました。

一方、ヒノキですが、図 7、図 8 は同一の木のそれぞれ 2015 年、2016 年秋のものです。一帯の木に関しては兩年とも多くの花芽が着いており、著明な差はみられません。2016 年のシーズンは、これまでで最も多かった 2013 年の 2,330 個や 2 番目に多かった 2011 年の 2,200 個と同等の着花状態と思われましたが、実測値は約 390 個/cm² と予想外の少なさでした。今シーズンも前年秋の時点では、多くのヒノキの木で昨シーズン以上に花芽が着いています。ちなみに、ヒノキの現時点での平年値は 930 個/cm² です。

平年値は最近 10 年間の平均としています。

2016 年のスギ総数が 1,240 個/cm² と少なかったため、2017 年のシーズンを迎えての平年値は、前年の 2,590 個/cm² から 2,530 個/cm² へとやや減少しました（図 9）。3 年連続して平年値を下回った最近のスギ花粉飛散ですが、今シーズンは平年を上回る飛散数となりそうです。ヒノキも花芽はたくさん着いていますが、現時点では成熟した雄花ではなく、昨シーズンの例もありますので、数の予測は困難です。今シーズンは寒い冬となることが予測されています。ここ 2 シーズンのように降水機会が多ければ花粉飛散は抑制されますが、久しぶりに大量飛散が予測される着花状態となっていますので、十分な対策をお願い致します。

山口県医師会花粉情報委員会は発足から 20 年以上が経過しました。花粉測定機関の皆様には毎年の花粉測定に心から感謝申し上げます。しかし、ここ数年、花粉測定を継続できなくなった測定機関が複数存在し、測定機関数が減少してきております。花粉情報提供は県からの委託事業ですので、花粉測定機関の皆様には是非ご参加を継続していただきますとともに、今シーズンも約 4 か月に亘る測定をよろしくお願い申し上げます。

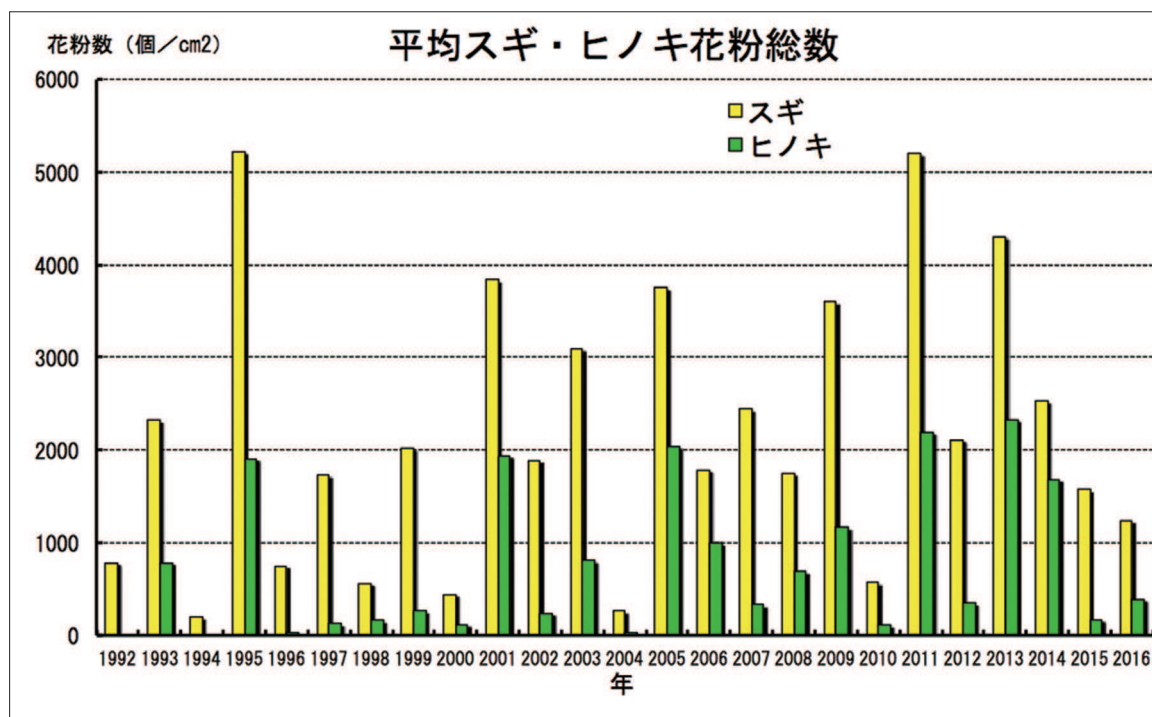


図 1 年別スギ・ヒノキ花粉総数

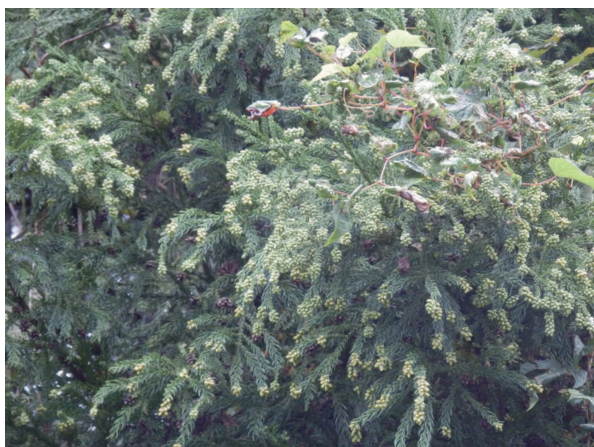


図 2 Kg 地点のスギ (2015 年秋)



図 3 Kg 地点のスギ (2016 年秋)

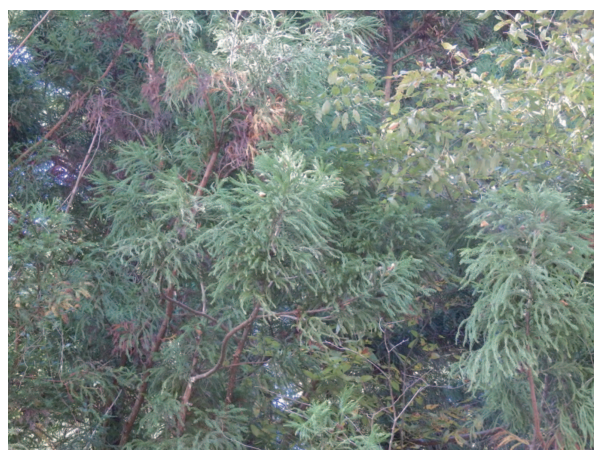


図 4 Km 地点のスギ (2015 年秋)



図 5 Km 地点のスギ (2016 年秋)

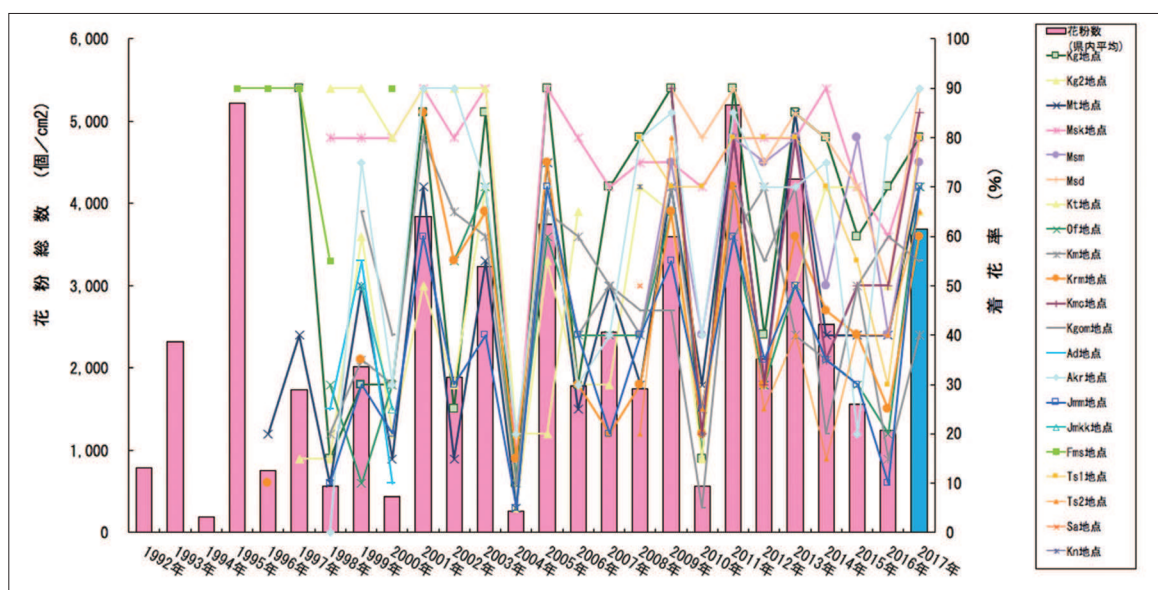


図6 年別スギ雄花の着花率とスギ花粉総数



図7 Mt 地点のヒノキ（2015 年秋）



図8 Mt 地点のヒノキ（2016 年秋）

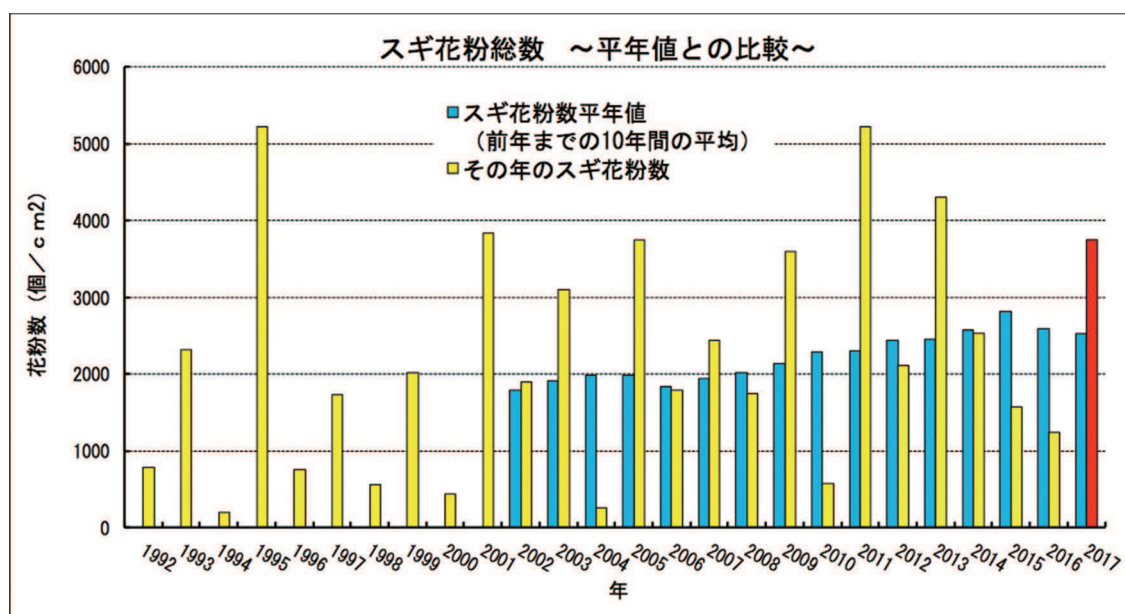


図9 スギ花粉総数の平年値と実測値